

安心・活力・発展の大分県づくり を支えるインフラ



平成27年3月1日
東九州自動車道（豊前～宇佐）・中津日田道路（中津～伊藤田）接続



平成27年3月21日
東九州自動車道（佐伯～蒲江）開通



平成27年3月1日
東九州自動車道（豊前～宇佐）開通

平成27年9月
大分県 土木建築部

目次

【高速道路】

- ・ 東九州自動車道は「命の道」～暮らし・医療を支え地域を守る～ P. 1
- ・ 東九州自動車道は「芸術・文化を運ぶ道」 P. 2
- ・ 東九州自動車道は「伊勢えび海道」～売上げ増加～ P. 3
- ・ 東九州自動車道の開通によりゴールデンウィーク期間中の観光客が増加！ P. 4
- ・ 東九州自動車道開通により新規RORO船就航の検討開始！ P. 5

【道路】

- ・ 重要港湾と広域交通ネットワークの一体的な整備により県北地域に進出する企業が増加！ P. 6
- ・ 平成24年九州北部豪雨災害において中津日田道路がリダンダンシー効果を発揮！ P. 7
- ・ くじゅう連山を周遊する道路整備で観光施設の入場者数が増加！ P. 8
- ・ 道路整備により沿線利用が活発化し店舗も続々進出！ P. 9

【河川】

- ・ 河川改修と農地との一体的な整備により農作業が効率化し生産性が向上！ P.10
- ・ 安心して暮らせる住環境を整備し、移住者の積極的な受入れにより地域活性化！ P.11

【砂防】

- ・ 土石流からまちを守り、「湯のまち別府」の活性化に貢献！ P.12
- ・ 土石流を抑制し、地域を安全に！津波からの避難を支援し、安全な暮らしへ！ P.13

【港湾】

- ・ 岸壁整備により中津港の貨物量が約8倍に！ P.14
- ・ 観光船旅客ターミナル整備でインバウンド効果！ P.15
- ・ 港湾緑地整備により賑わい創出！ P.16
- ・ 佐伯港の埠頭整備により新規企業進出！ P.17

【都市整備】

- ・ 幹線道路整備と区画整理で県都中心部の再生へ P.18
- ・ 区画整理を契機とした職住近接の新たな街へ P.19
- ・ 下水道整備により水質が改善され住民活動が活発になり、ホタルが飛翔するまでに！ P.20
- ・ 大分スポーツ公園の整備にあわせて周辺環境の一体整備により地域が大きく発展！ P.21

【住宅整備】

- ・ 災害で壊滅状態の地区を短期間で再生・改善 P.22

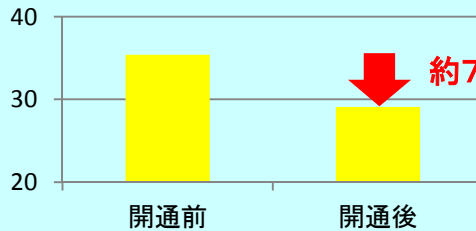
東九州自動車道は「命の道」 ～暮らし・医療を支え地域を守る～

佐伯市蒲江地域から第二次救急医療施設への搬送時間が短縮

- ・ 佐伯～蒲江間の開通により、救急搬送時間が**約7分短縮**となり、**30分以内の搬送も可能**になった。また、搬送時の走行性が向上し、**患者の負担が軽減**された。



平均搬送時間の変化 (出典: 佐伯市)



- ・ 時間短縮ができ、帰署までの時短により次の出動態勢が早くとれる
- ・ 峠やカーブが少ないため、隊員が車内での患者への処置が行いやすい
- ・ 峠やカーブが少ないため、患者の負担が大きく軽減されている。

▲佐伯市消防署の声(出典: 佐伯市)

緊急連絡路の設置で集落の孤立化解消

- ・ リアス式海岸のため台風等による越波で通行止が発生。
- ・ 南海トラフ巨大地震の津波で、唯一の県道が被災し通行止になることで、孤立集落の発生が懸念。
- ・ 東九州自動車道に**緊急連絡路**を設けたことで、**災害時の避難経路・輸送経路が確保**された。



古江丸市尾線越波状況

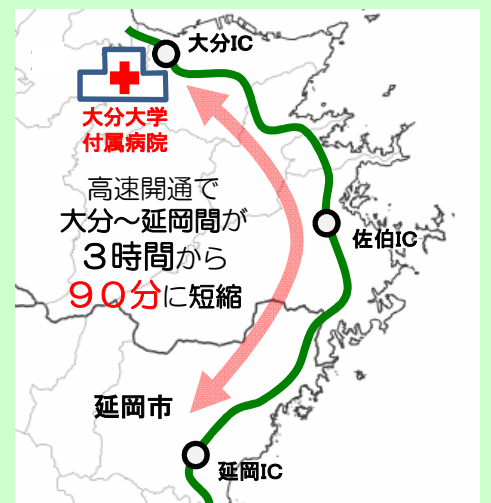


丸市尾地区緊急連絡路



県境を越えて医師の派遣が可能に

- ・ 近年宮崎県延岡市には神経内科の専門医がいなかったため、患者は専門医のいる宮崎県宮崎市や大分県佐伯市まで診察・治療を受けに行っていた。
- ・ 東九州自動車道の開通により、**大分大学から医師の派遣が可能**となり、**延岡市内に神経内科の外来が復活**し、**患者の負担も軽減**された。



(参考) 神経内科
脳梗塞や認知症、パーキンソン病など、脳・神経・筋肉の異常を診る専門科

東九州自動車道は「芸術・文化を運ぶ道」

iichiko presents

宝塚歌劇雪組 全国ツアー大分公演

開催日

2015.12.3 (木)

[昼の部] 開演 14:00

[夜の部] 開演 18:00



© 宝塚歌劇団

※本写真は当公演内容とは異なります

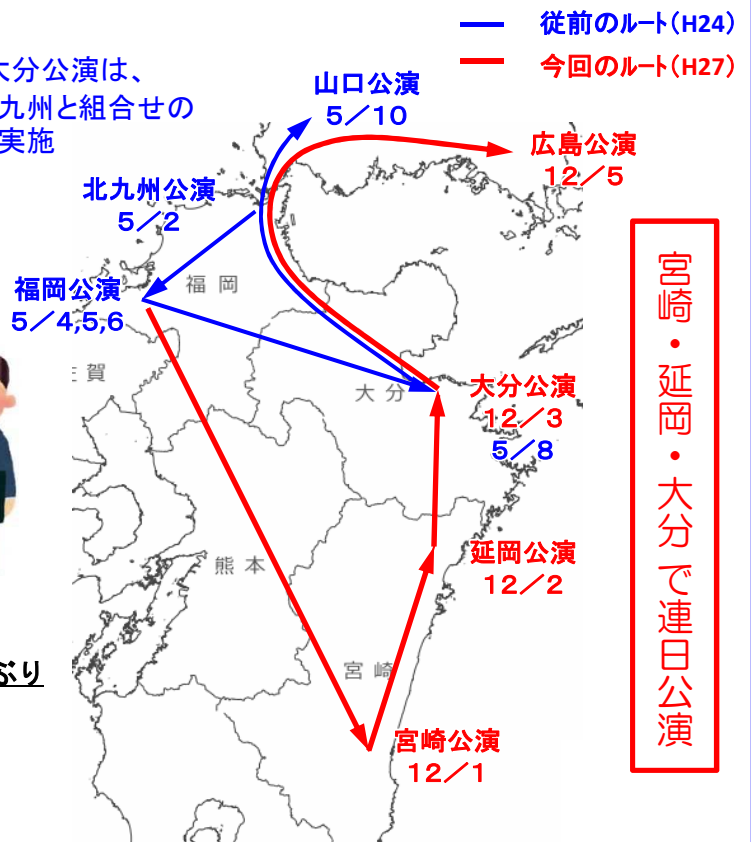
© 宝塚歌劇団

東九州自動車道開通により、宝塚歌劇団が大分～宮崎ルートでツアー公演を決定

【担当者のコメント】

出演者等の移動時間もあるが、舞台スタッフが、撤収作業後にそのままトラックで次の公演地に行く必要があるため、**大分～宮崎で連日公演を組むのはこれまで不可能であった。**
今回、東九州自動車道ができることで本ツアー公演が可能となった。

従前の大分公演は、福岡・北九州と組合せのルートで実施



宮崎・延岡・大分で連日公演

【公演スケジュール】

- 2015年11月28日, 29日 福岡市民会館
- 12月 1日 宮崎市民文化ホール
- 12月 2日 延岡総合文化センター **※14年ぶり**
- 12月 3日 iichikoグランシアタ (大分)
- 12月 5日 広島県立文化芸術ホール

宝塚歌劇雪組全国ツアー大分公演

- ・ミュージカル・ロマン
『哀しみのコルドバ』
- ・パイレ・ロマンティック
『La Esmeralda (ラ エスメラルダ)』

(公財) 大分県芸術文化スポーツ財団
TEL 097-533-4004 ホームページ <http://www.emo.or.jp/>

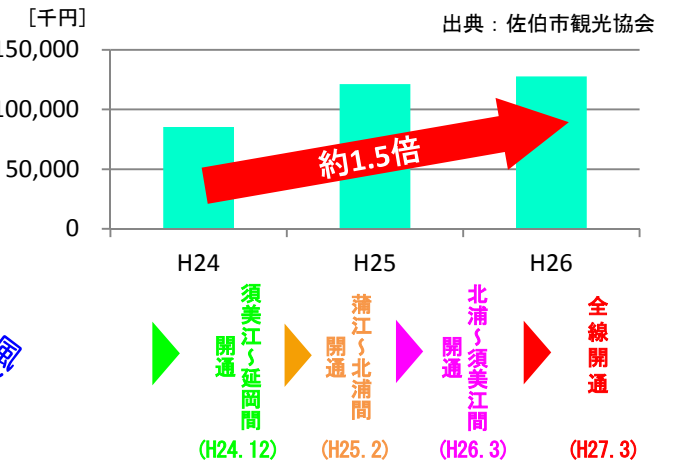
東九州自動車道は「伊勢えび海道」



東九州自動車道開通を見据え、平成16年からスタートした大分県佐伯市と宮崎県延岡市の合同観光キャンペーン「東九州伊勢えび海道」が、**開通効果**で着実に成長



東九州伊勢えび海道・伊勢えび祭りの売上げが増加



「東九州伊勢えび海道・伊勢えび祭り」とは
大分県佐伯市と宮崎県延岡市の食事処約30店舗で、伊勢えび漁の解禁となる9月からの3ヶ月間、伊勢えび料理をはじめとした、津々浦々の魚介が堪能できる祭り

写真提供：佐伯市観光協会



東九州自動車道の開通により ゴールデンウィーク期間中の観光客が増加！

九州の東の玄関口として機能を発揮



○東九州自動車道(豊前～宇佐間:H27.3開通)
○中津日田道路(東九州道～中津港直結:H27.3開通)



・関西や四国等へ向かう県内フェリー7航路の県内上陸者数が13%の増加



○中九州横断道路(大野～朝地間:H27.2開通)

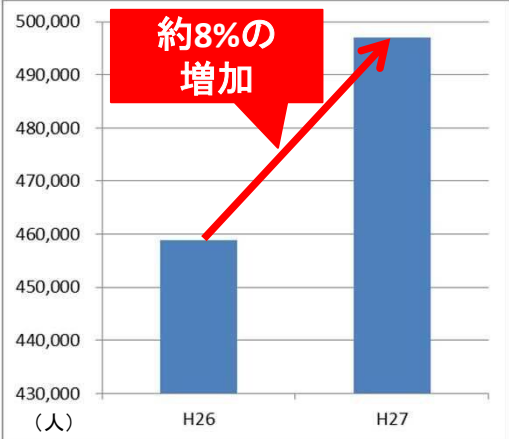


○東九州自動車道(佐伯～蒲江間:H27.3開通)

凡 例	
■	開通区間
■	事業中区間
●	計画路線
○	候補路線

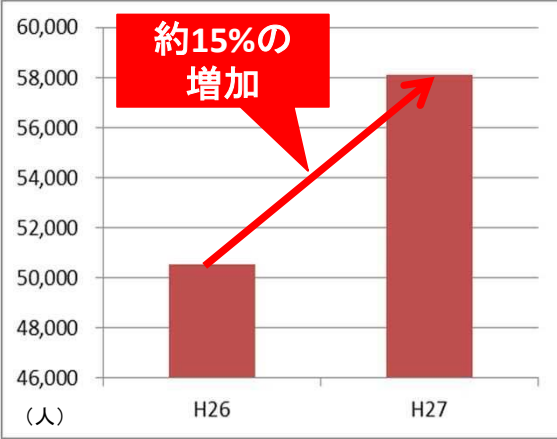
ゴールデンウィーク期間中の観光客が増加

観光施設



・県内観光施設(屋外16施設、屋内15施設)の入場者数が約8%の増加

宿泊施設



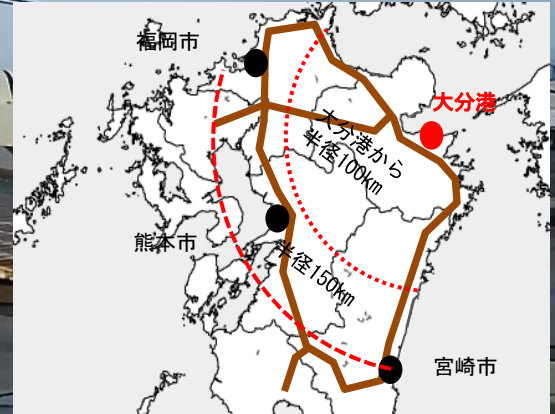
・県内宿泊施設(40施設)の宿泊者数が約15%の増加

東九州自動車道開通により 新規RORO船就航の検討開始！



大分港（大分県）

高速道路等整備による輸送範囲の拡大



大分県は九州の東の玄関口



国内海上出入り貨物量は九州第2位
本州・四国とのフェリー航路数、
便数とも、九州第1位



- ・東九州自動車道県内全線開通
- ・中津日田道路、中九州横断道路の整備推進



大分港～清水港
新規RORO船の就航検討を開始！

→地域経済への波及効果が期待

【新規RORO船検討開始の背景】

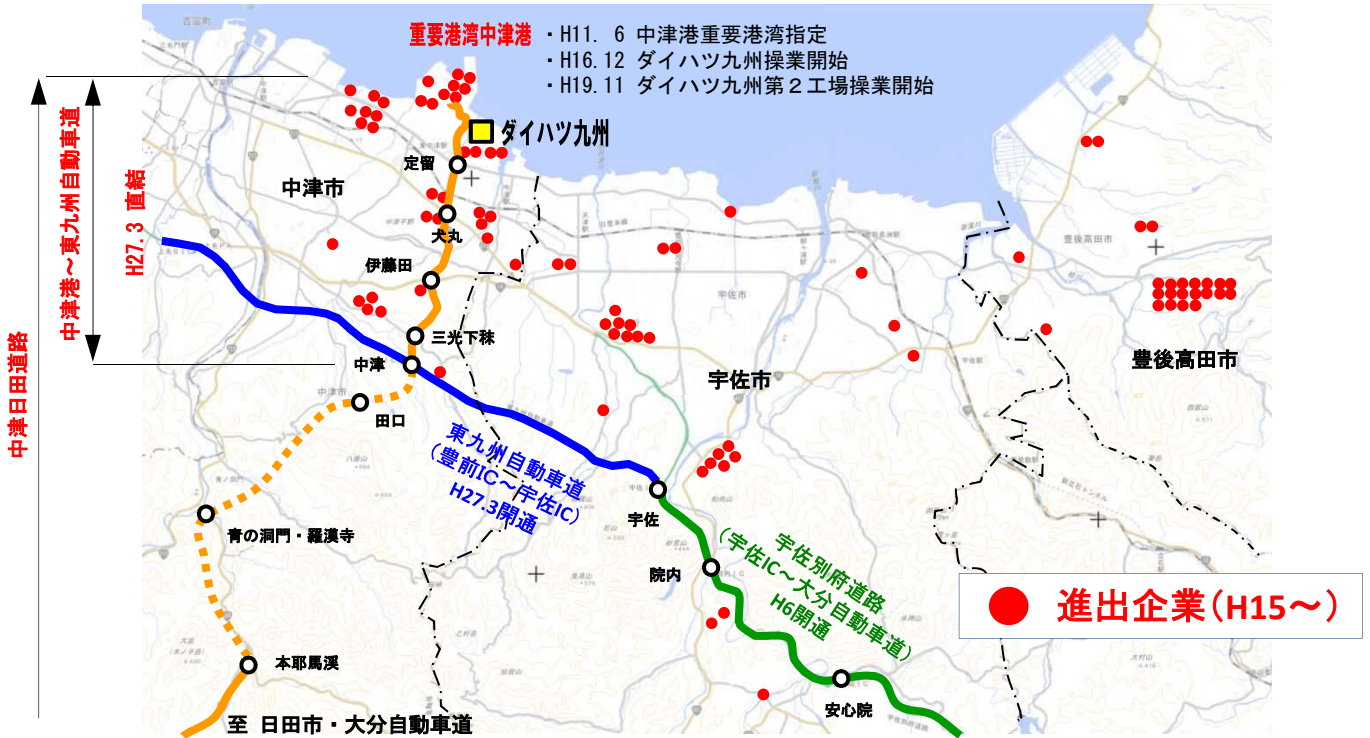
- ・ RORO船需要の高まり
 深刻なドライバー不足
 長距離輸送が困難
 → 海上輸送への
 モーダルシフトを推進
- ・ 大分港の距離的優位性
 24時間サイクルで運行可能
 集荷から3日目の早朝までの配送が可能
- ・ 東九州自動車道の開通
 九州全域から集荷可能

大分港の距離的優位性

24時間サイクルで運航可能
 運行片道20時間
 積込・積卸4時間



重要港湾と広域交通ネットワークの一体的な整備により県北地域に進出する企業が増加！

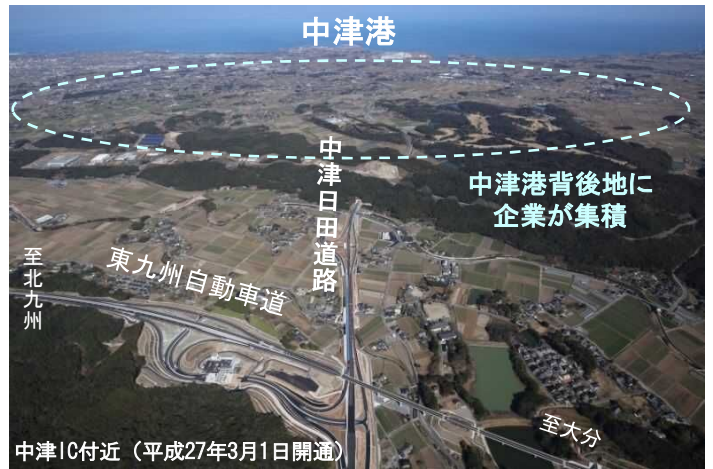


東九州自動車道・中津日田道路の
開通を見越して、自動車関連企業
などが続々進出

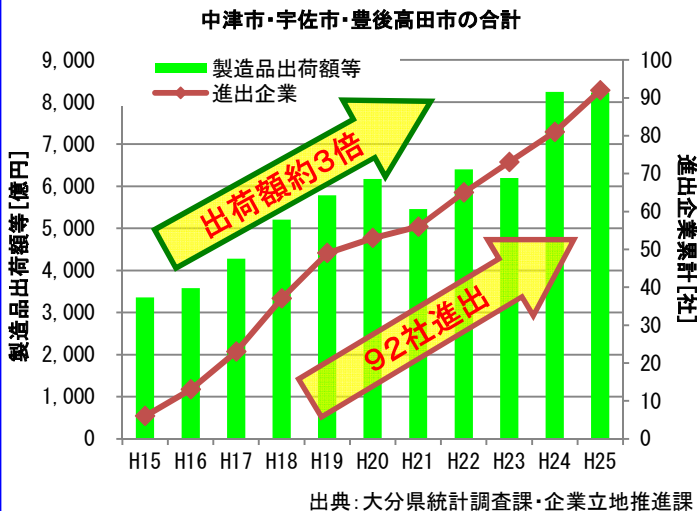
過去約10年で！

進出企業 92社進出
製造品出荷額等 約3倍増加
世帯数 2,613世帯増加

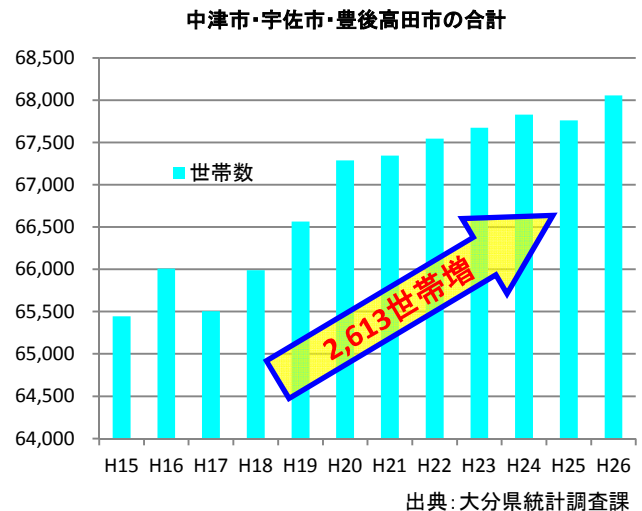
地域経済や雇用、定住促進に
大きく貢献



製造品出荷額等及び進出企業の伸び



世帯数の伸び



平成24年九州北部豪雨災害において 中津日田道路がリダンダンシー効果を発揮！



国道212号 約40日間 通行止め区間



●山国川増水による兼用護岸の流出
(中津市耶馬溪町戸原)

代替路 中津日田道路(H24. 3供用)



●中津日田道路を迂回する路線バス

- ・平成24年7月の九州北部豪雨により中津市耶馬溪町戸原地区では、
約40日間全面通行止め(国道212号)

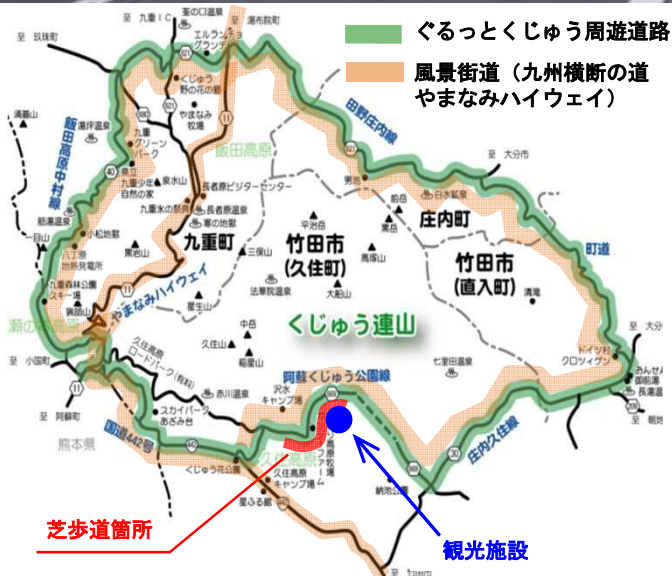
→ 沿線住民の生活や地域産業の物流に大きな影響

- ・中津日田道路(本耶馬溪耶馬溪道路)を「命をつなぐ道」として利用
→ 平成24年3月に供用開始した区間が、代替路として機能発揮

くじゅう連山を周遊する道路整備で 観光施設の入場者数が増加！



「芝歩道」の整備(阿蘇くじゅう公園線)

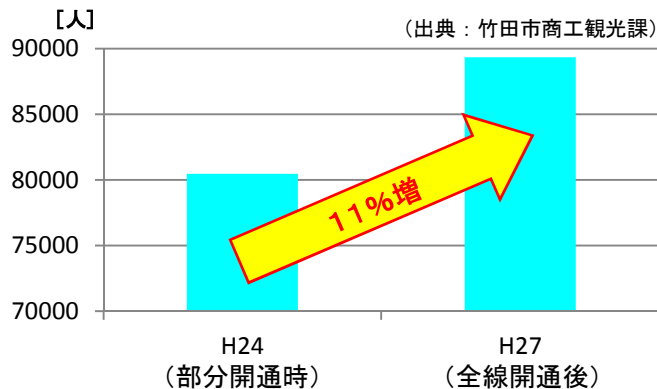


●愛称及びマークを活用した道路標識設置
●キロポストの設置 ●「とるば」設置

- ・阿蘇くじゅう国立公園の一部であるくじゅう連山を周遊する道路を「ぐるっとくじゅう周遊道路」と命名し、統一した道路標識設置等により分かりやすい道路案内を実践
- ・日本風景街道「九州横断の道 やまなみハイウェイ」にも指定され、「とるば」の整備なども実施

観光施設の入込客数が増加

4月～6月の入込客数の変化



久住高原からくじゅう連山を望む
(出典：竹田市観光ツーリズム協会)

- ・道路改良により大型観光バス等の円滑な通行を確保
- ・「芝歩道」を整備することにより、沿線の観光施設の散策ルートとして、美しい景観を創出
- ・「芝歩道」の日常管理は地元で実施し、観光振興を官民一体で実施

道路整備により沿線利用が活発化し 店舗も続々進出！



60以上の店舗が沿線に立地した国道217号



- ・道路整備によるアクセス向上により、食品・衣料・生活雑貨をはじめとする小売業や、家電量販店、飲食業、歯科・薬局、ガソリンスタンド等 **60以上の店舗が沿線に進出**。
- ・これにより雇用の場・賑わいの空間が創出され、**地域経済や定住促進に大きく貢献**。
- ・この他に佐伯警察署及び佐伯市消防本部も沿線に移転し、市内各地への出勤が改善。
- ・第二次救急医療施設指定西田病院も移転し、利便性が向上。さらに大分市内にある第三次救急医療施設へのアクセス性も改善。

慢性的な渋滞（渋滞長1,500m）が解消



大雨毎に冠水する箇所回避が可能に



●開通前の状況 全面通行止16回（H16～H25）

国道217号のバイパス整備により、**渋滞ポイント**や**冠水箇所**を経由することなく佐伯市中心市街地にアクセス可能となり、**定時性・耐災性が向上**

河川改修と農地との一体的な整備により 農作業が効率化し生産性が向上！

八坂川（大分県）



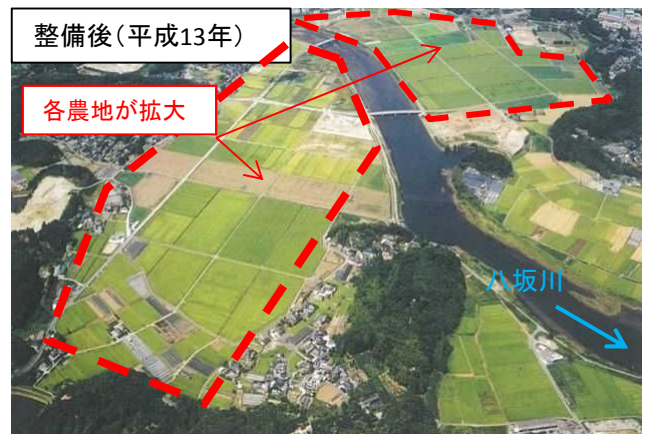
水田の作業に必要な労働時間について
例：10a(アール)1年間分の作業を
2時間で行うために必要な人数は・・・

16人	5人
-----	----

大分県平均：16人 八坂地区：5人

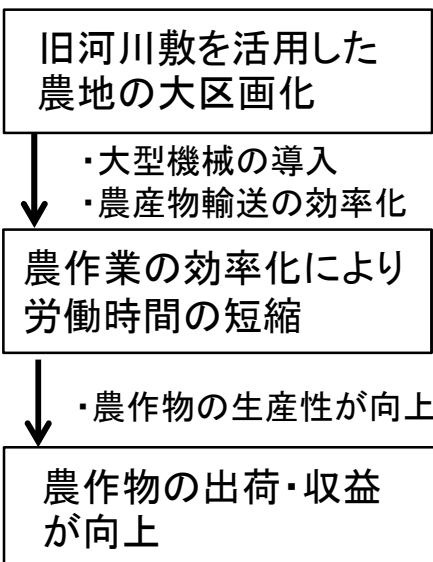
大型機械の導入状況

● before ➡➡➡ ● after 河川改修と農地との一体的な整備を実施



農作物の生産性が向上

農作業効率化の取組みにより
農作物出荷額が飛躍的に増加



八坂地区における農作物出荷額の推移 ※一部の団体を除く

安心して暮らせる住環境を整備し、 移住者の積極的な受入れにより地域活性化！

稲葉ダム（大分県）



平成24年九州北部豪雨
洪水調節状況

平成22年完成

● before ➡➡➡ ● after



■平成2年水害 稲葉川の氾濫
により甚大な被害が発生



平成24年九州北部豪雨後

凡例：H2浸水実績

稲葉川

■浸水被害は発生せず、安心して暮らせる住環境を確保

稲葉ダムが完成し
安心して暮らせる住環境が整った。
さらに地域活性化の取組みを進め
移住者の積極的な受入れが可能に！

【地域活性化の取組み】

竹田市アート・レジデンスプロジェクト
芸術で活性化 移住者の積極的な受入

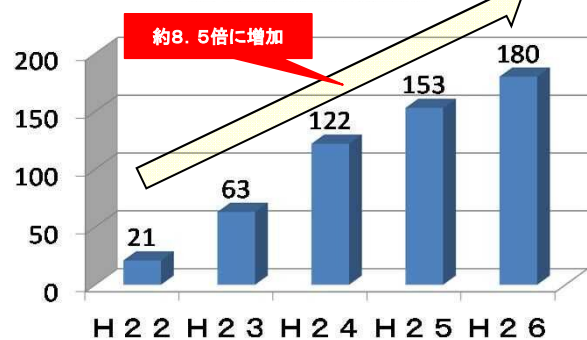


アート・レジデンス
拠点：竹田総合学院

染め物工房
(酒蔵を利用)

ギャラリー
(空き家を利用)

移住者数の推移（竹田市）



現在、5年間で180人が移住
さらに移住定住化の促進が見込まれる

土石流からまちを守り、 「湯のまち別府」の活性化に貢献！

境川（大分県）



【 境川 】
・昭和7年
・昭和50年
・昭和55年

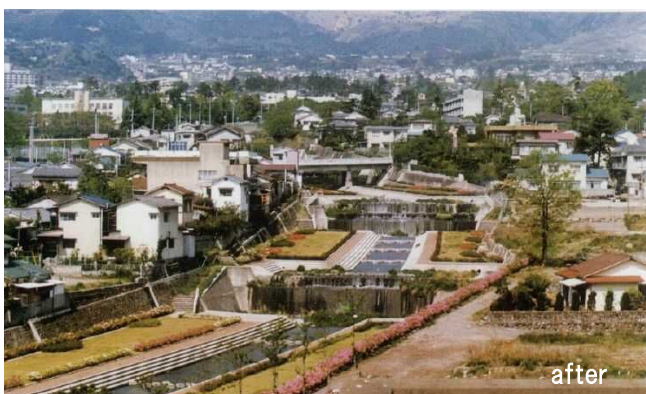
県下初の砂防ダム事業に着手
昭和50年までに多くの砂防ダムを整備
砂防環境整備事業に着手
九州初の砂防公園完成



● before ➡➡➡ ● after



鶴見岳一気登山のルート
ともなる砂防公園が完成



べっぷ鶴見岳一気登山

地域資源を活かしたイベントにつながり、
地域の活性化に貢献!!

【概要】
海から山頂
(1375m)まで砂
防河川敷を一部
コースとする登
山イベント



土石流を防ぎ、地域を安全に！
津波からの避難を支援し、安全な暮らしへ！

西の浦川（大分県）



● before ➡➡➡ ● after

- ・災害リスクの高い小規模集落を保全！
- ・砂防えん堤への避難路を整備し津波からの避難を支援！



砂防えん堤への避難路を整備し、
避難場所の指定が可能に！

整備された避難路を使用し
避難場所へ！

より高く、海より遠い場所へ！
速く、安全に！

岸壁整備により中津港の貨物量が約8倍に！

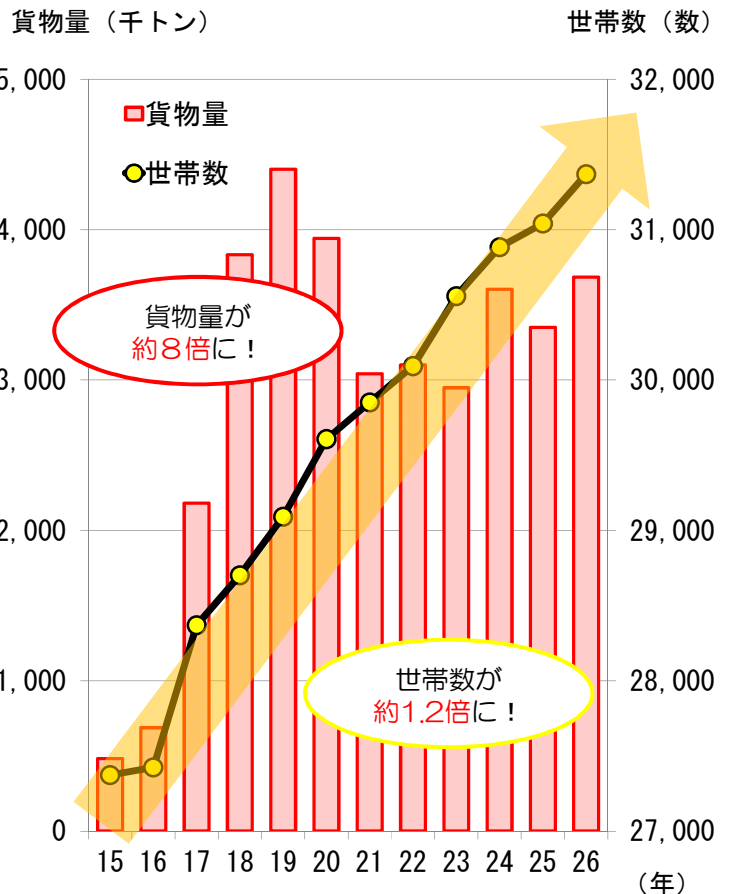
中津港（大分県）



- ・平成11年 6月 重要港湾に指定
- ・平成11年12月 岸壁（-11m）工事着手
- ・平成16年 9月 中津東ふ頭供用開始
- ・平成16年12月 ダイハツ工場が生産開始
- ・平成27年 3月 臨港道路供用開始

- ・ダイハツ工場が生産を開始し、**中津港の貨物量が飛躍的に増加**
- ・自動車関連企業の集積に伴い、**旧中津市において世帯数が増加**

● before ➡➡➡ ● after



中津港の貨物量、旧中津市の世帯数

観光船旅客ターミナル整備でインバウンド効果！ 別府港（大分県）



- ・ 昭和26年 9月 重要港湾に指定
- ・ 平成12年 第4ふ頭 整備に着手
- ・ 平成23年 3月 第4ふ頭 供用開始
- ・ 平成25年 4月 14万t級クルーズ船対応
(係船柱等の整備)

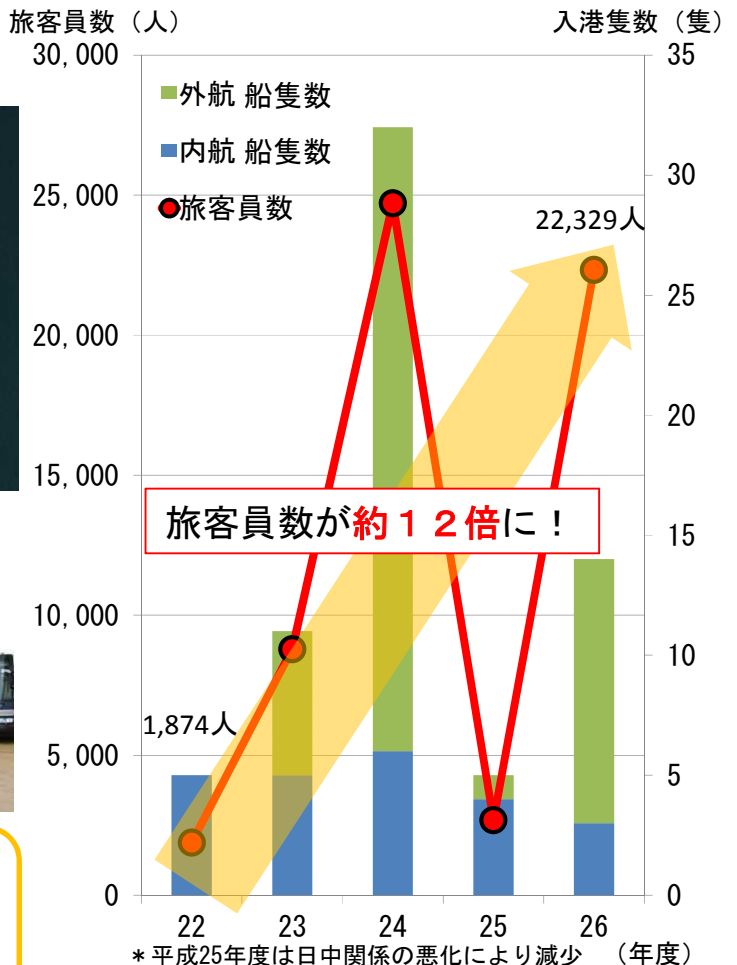
別府港第4ふ頭の供用に伴い、
外航船の入港が可能に！
それに伴い、
旅客員数が飛躍的に増加！



【クルーズ船入港状況】



レジェンド・オブ・ザ・シーズ
H24年8回入港、乗船客数14,863人
→ **約6.5億円の経済波及効果！（大分県）**



外航船の入港数及び旅客員数（別府港）

港湾緑地整備により賑わい創出！

津久見港（大分県）

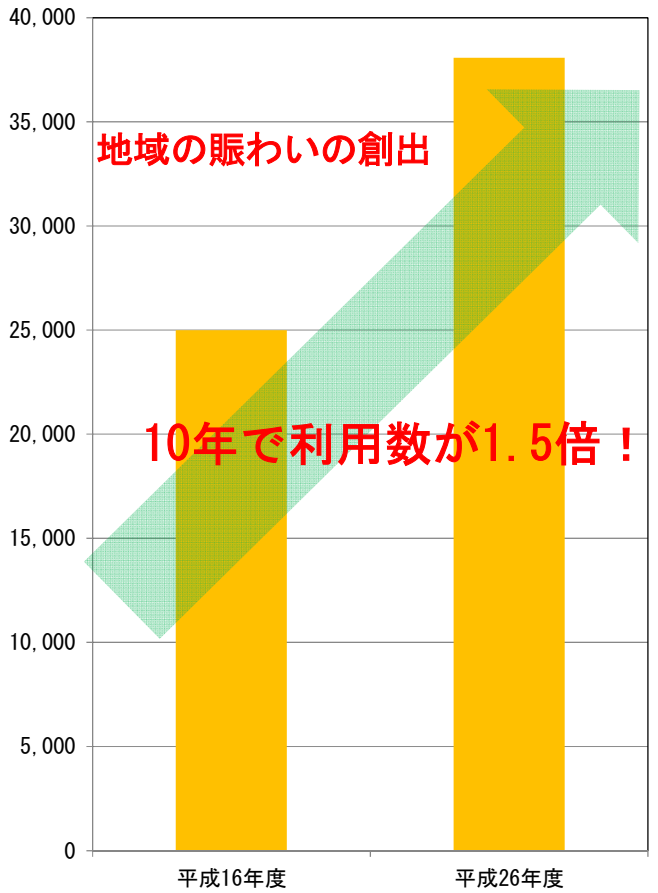


扇子踊り

- ・平成10年 緑地の整備着手
- ・平成14年 緑地等の埋立完了
- ・平成15年 商業施設進出
- ・平成16年 緑地施設の供用開始
宿泊施設進出
- ・平成19年 大型商業施設進出
- ・平成20年 みなとオアシス認定

港湾緑地の整備により、
 → 商業施設、宿泊施設が進出
 → 集客数が増加

集客数（人）



地域の賑わいの創出

10年で利用数が1.5倍！

港湾緑地(つくみん公園)の集客数

平成17年8月撮影



【多くのイベントに利用】



佐伯港の埠頭整備により新規企業進出！

佐伯港（大分県）



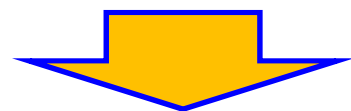
● before ➡➡➡ ● after



- ・ 新たな埠頭（-14m岸壁）
が供用開始（平成26年3月）



- ・ バイオマス発電所
→立地表明（平成26年8月）
- ・ 平成28年秋 稼働開始予定

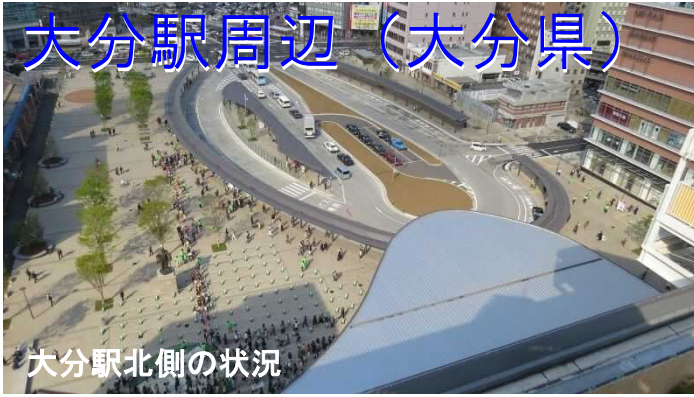


- ・ 新たな雇用創出
→地域経済への貢献に期待



幹線道路整備と区画整理で県都中心部の再生へ

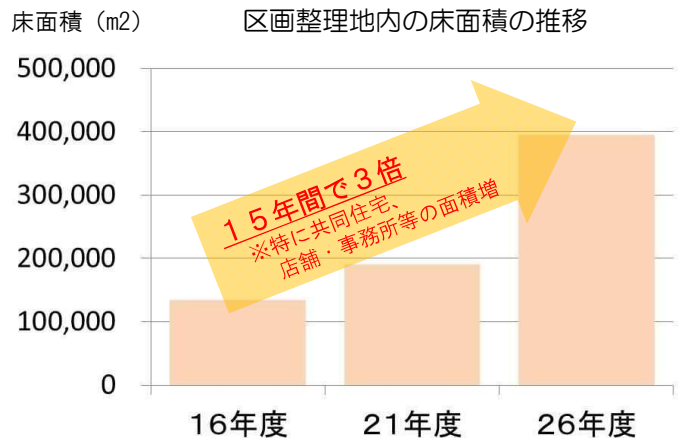
大分駅周辺（大分県）



～ 事業経緯 ～

- 平成 7年 2月 庄の原佐野線 事業認可取得
- 平成 9年 3月 連続立体交差事業 事業認可取得
- 平成 8年12月 大分駅南土地区画整理事業
事業計画決定
- 平成20年 9月 庄の原佐野線 供用開始
(大道、金池・上野工区)
- 平成24年 3月 JR日豊本線高架開業
- 平成27年 4月 大分駅ビル開業

区画整理により、土地の有効活用が促進



「大分駅付近連続立体交差事業」
「庄の原佐野線」
「大分駅南土地区画整理事業」

アクセス向上・魅力的な街なみ

高度利用・開発誘発・人口増
新たな賑わいの創出

各地から人が集まる街なかへ



区画整理を契機とした職住近接の新たな街へ

大在駅周辺（大分県）



区画整理をきっかけに地元のまつりへ多くの住民が集まり活気づく



大在土地区画整理事業

大分キャノンマテリアル進出

区画整理後の状況～区画が整い機能的で魅力的な新しい街へ～

事業経緯

- ・昭和48年 5月 土地区画整理事業都市計画決定
- ・昭和49年 6月 事業認可取得
- ・平成10年 3月 換地処分

「大在土地区画整理事業の実施」



新たな魅力的な街なみ

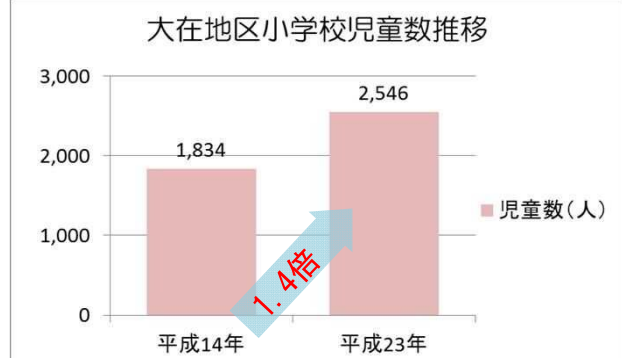
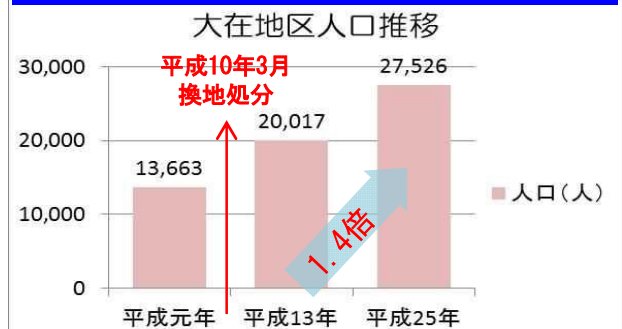


近隣で新たな企業立地

※平成19年
大分キャノンマテリアル(株)
大分事業所操業開始等

区画整理がきっかけとなり
引き続き人口増加へ

区画整理後も人口増加へ



下水道整備により水質が改善され住民活動が活発になり、ホタルが飛翔するまでに！

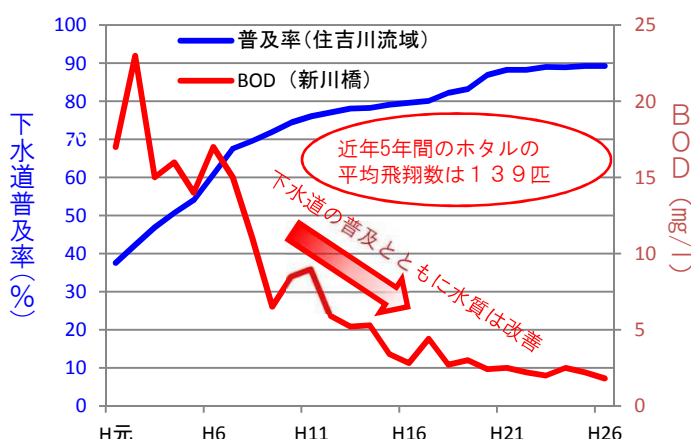
● before ➡➡➡ ● after



住吉川浄化対策推進協議会による住民活動状況



下水道普及率と水質改善の効果

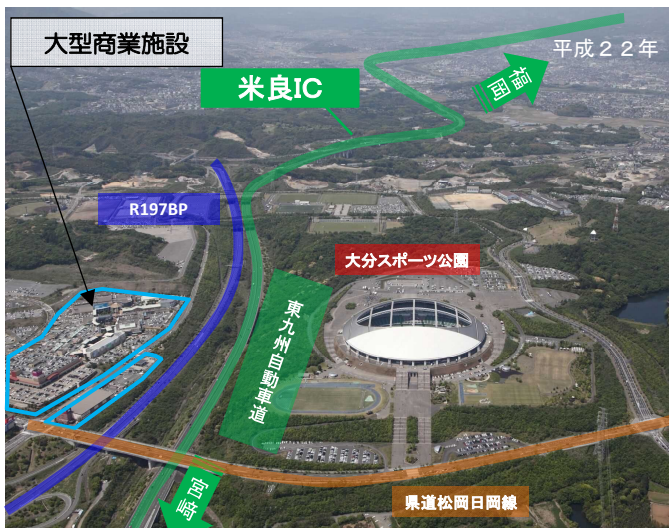


<住吉川の下水道普及率と水質改善の効果>

ホタルの飛翔状況



大分スポーツ公園の整備にあわせて 周辺環境の一体整備により地域が大きく発展！



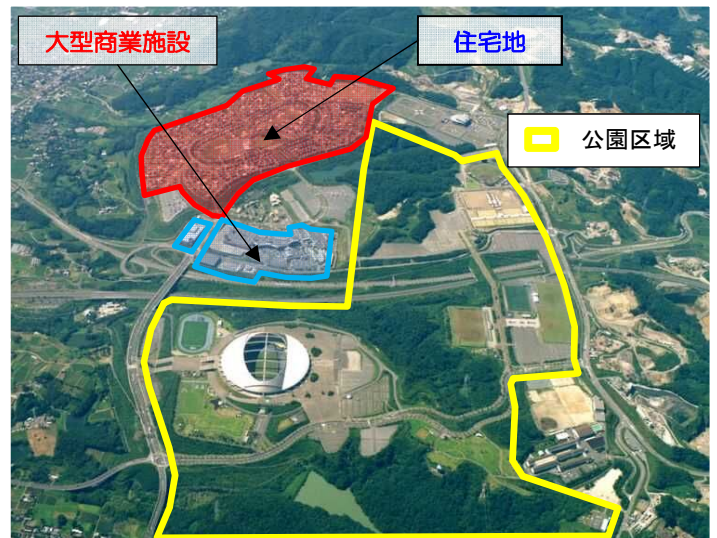
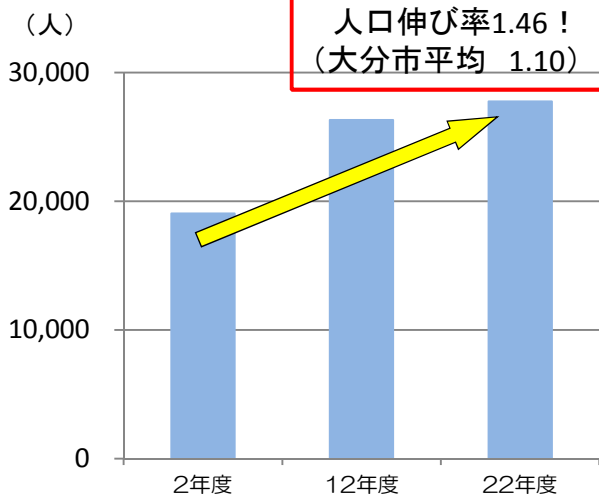
【住宅団地の開発】
公園通り H13年度～
京が丘 H16年度～



【大型商業施設の進出】
パークプレイス大分開業
(H14年4月)

- ・大分スポーツ公園 H13年3月完成
- ・県道 松岡日岡線 H13年4月開通
- ・国道197バイパス H14年4月開通

公園周辺の人口の伸び（鶴崎大南地区）



・大分スポーツ公園の整備に合わせて
周辺環境の一体整備
→ 住宅地や大型商業施設が進出し
地域が大きく発展

災害で壊滅状態の地区を短期間で再生・改善

竹田市阿蔵地区 (大分県)

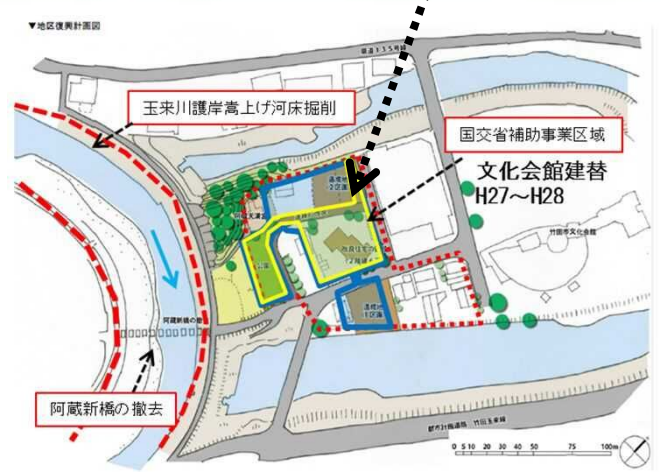


平成24年九州北部豪雨災害

● before ➡➡➡ ● after



H24.7月九州北部豪雨による玉来川氾濫に伴う地区の被害
 全壊2戸
 大規模半壊6戸 → 12戸解体
 半壊12戸



河川事業：護岸復旧・嵩上げ、河床掘削、ダム建設中
 溢水の原因となった橋の撤去
住宅事業：共同住宅建設（6戸）、道路拡幅・嵩上げ
 公園整備、関連事業（造成(分譲3区画)）

河川事業及び住宅事業の整備効果

祭りが復活・新しい公園で神楽舞い

